

Please join us !

OSAKA 大阪おおさかの街

— for the city of Osaka —

商都大阪の市営バス

大阪市交通局

通勤や通学、買い物やレジャーなど、誰もが利用する公共交通機関。大阪市交通局の一日の平均乗客数は、地下鉄228万人、ニュートラム7万人、バス18万人、合計256万人と、ほぼ大阪市の人口と同数です。市営交通は、まさに、私たちの足となって、商都大阪を支えてくれています。今回は市営バスについて、大阪市交通局にお話を伺いました。

市バスの歴史

大阪市営バスの運行が始まったのは昭和2年（1927）。阿倍野橋から平野までの間4・8kmを7台のバスで結んでいました。創業当時、大阪市では民営の大阪乗合自動車が行先して営業していました。銀色の車体の市営バスは銀バス、青い車体の民営バスは青バスと呼ばれ、昭和15年（1940）に統合されるまで、激しいサービス合戦を繰り広げました。戦後も、民間のバス会社の参入はあったものの、市内中心部の路線は、サービスの改善や効率的な運営に積極的に取り組みながら、市営バスが担ってきました。

昭和26年（1951）には、日本初のワンマンカーの運行を開始しています。平成14年（2002）から運行を始めた赤バスは、地域密着型のコミュニケーションバスです。小型のノンステップバスが、区役所や病院、住宅地、商店街などの生活エリアを結んでいます。

利用者が最も多かったのは、昭和39年（1964）です。一日の平均乗車数が119万人に達しました。その後、利用者は急減し、昭和48年（1973）の平均乗車数は61万人、ピーク時の2分の1となりました。現在の総営業距離は約637・3km、車両数は769台。幹線道路を走る一般バス127路線と、主に生活道路を走る赤バス27路線が運行されています。



開業当時の市営バス

サービスの充実

大阪市交通局では、「市営交通バリアフリー計画」に基づいて、利用しやすい設備の拡充を進めています。これは、平成12年に施行された「交通バリアフリー法」を受けたもので、来年には9年計画の最終年度を迎えます。リフト付きバスやノンステップバスの導入、停留所へのバスシェルターや日除けテント、ベンチの設置など、誰もが快適にバスを利用できる環境整備を進めてきました。

バスロケーションシステムは、次のバスが近くの停留所まで来ていることを表示するシステムです。昭和56年（1981）に住吉車庫前 上本町6丁目間で最初に導入されました。その後、他の路線への導入も進み、平成12年（2000）に、市役所や市民病院でもバスの接近情報が表示されるようになりました。平成17年（2005）には、パソコンや携帯電話からバスの運行状況を確認できるシステムの整備がなされました。

料金面でも、種々の割引を設定しています。規定の時間内であれば、バスとバスは一区間分の料金200円で乗り継ぐことが可能。地下鉄との乗り継ぎであれば、100円割引。通勤定期でバスを利用している人には、土・日・祝日は家族の乗車料金が割引になります。この他仕事やレジャーに便利なカードもあります。地下鉄、ニュートラム、市バスの他、スルツとKANSAI加盟の電車やバスも利用できるレインボーカード。一日乗り放題の共通一日乗車券。毎月20日のノーマイカーデーと毎週金曜日に使えるノーマイカーフリーチケット。地下鉄、ニュートラム、市営バスが乗り放題の共通全線定期券。定期観光バスに代わる新たな市内観光のツールとして期待される大阪周遊バスなどがあります。

経営の改革

市民の足として日々の生活に欠かせない市営バスですが経営状況は厳しく、慢性的に赤字が続いています。この現状に際し、大阪市交通局は引き続き良質な公共交通サービスを提供するため、経営改革に取り組んでいます。

その一環として、平成20年（2008）に、神戸国際大学の土井勉教授を委員長とする「市営バスのあり方に関する検討会」を設置しました。検討会から中間提言を受け、平成21年（2009）7月に、市営バス事業の改革プラン「アクションプラン」（案）を策定しました。路線をタイプ別（左記）に分け、責任分担を明確にして運営してゆくなど、中長期的に収支バランスを改善してゆくプランがまとめられています。市民の方々の声を聞いた上で、実行してゆく計画です。



現在の市営バス（大阪駅前）

幹線系 バス路線が主要な交通機関となっている。

フィーダー系 地下鉄乗継利用の比率が高い。

地域系 生活圏をまたがる利用が主体。

コミュニティ系 生活圏内での利用が主体。

普段、通勤や通学で地下鉄を利用している区間も、バスで移動してみると新しい気付きが生まれます。点から点への移動だけではなく、町と街をつなぐ線を体感することで、地域をより身近に感じることができ、愛着が湧いてゆきます。「市バスは200円均一料金で市内を網羅しています。路線の乗り継ぎも便利になり、車窓風景を眺め、今まで気づかなかった街並みを発見しながら目的に向かう楽しさもあります。市民の財産である市バスが便利で楽しい交通手段であることをもっとアピールしていきたい」と話してくれました。

創業80年を越え、市民の生活を支えてきた市営バスは、変化し続ける市民のニーズに対応しながら、今日も安全に走ります。

運行経路・時刻表の問い合わせ先

市営交通案内センター

電話 06・6582・1400

<http://www.kotsu.city.osaka.jp/>

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞